

現代における家族内呼称の特徴の探索的検討 I

—家族からの呼称についての質問紙調査から—

高橋美枝

A Exploratory Study about Peculiar Features of the Family Names in the Present Day I :From a Questionnaire Survey of the Family Names called by Family Members

TAKAHASHI Mie

キーワード：家族内呼称、家族関係の変化、家族認識、質問紙調査

はじめに

人間は個人として存在している、絶えず他者との関係において生活し存在している。まさに、社会的な動物であり、社会的接触が生まれ消滅するというプロセスを繰り返している。そのなかで、「家族という社会集団内では常に高い頻度で社会的接触が行われ続けてきた」¹⁾。

また、この家族は時代や社会状況、文化によりその形態を変えている。現代では1世帯あたりの家族人数は減少しており、1985年には3.17人であったところが、2021年の国勢調査では2.21人と減少し、都道府県別でみると最も少ない東京都では1.92人、最も多い山形県でも2.61人となっている²⁾。厚生労働省による人口動態調査では、2020年の婚姻が535,507人であり、離婚が193,253人となっている³⁾。また、夫婦別姓や同性婚など、夫婦や家族のあり方についての議論も活発になされている。

そのような家族を巡る状況のなか、家族内呼称の研究が行われている。横谷(2014)¹⁾(前掲)は呼称を「ある集団の成員によってその集団の中でもっとも頻繁に使用される呼びかけ方」とし、家族内呼称を「家族成員によって家の中でもっと

も頻繁に使用される呼びかけ方」と定義している。家族内呼称は、家族のなかで日常的に使用される呼び方である。家族内呼称は、そういう意味で家族の日常やその背景にある家族文化の表出であるとともに、その呼び方は家族メンバー間の関係性が反映されていると考えられる。

横谷・長谷川(2010a)⁴⁾は、大学生を対象に、子どもから親への呼称及び夫婦間の呼称について、さまざまな呼称の親密さ、横柄さ、正常さの程度をSD法を用いての評定を質問紙により調査している。夫婦間の呼称も子どもから親への呼称も、全体として幅広い疎遠さ-親しさ、横柄さ-敬意、異常さ-正常さを示しつつ、個々の呼称は特定の意味を有するという結果が得られている。また、無規定の呼称(「呼ばない」「おまえ」「おい」等)はそうでない呼称に比べて、疎遠、横柄、異常であると評定されている。

また、呼称のあり方と家族間の関係性について、横谷・長谷川(2010b)⁵⁾は、大学生を対象に、子どもの視点から見た家族関係について、家族呼称質問紙、ドメスティックバイオレンス簡易スクリーニング尺度、夫婦満足度尺度を含む質問紙調査を実施している。侮蔑した呼称を使用する家族は、そうでない家族と比べて、夫婦間満足度が低く、身体的配偶者暴力(SV)を行うことが多いという結果を得ている。

横谷・長谷川(2011)⁶⁾では、子どもから親へ

の呼称と愛着態度との関係について大学生、専門学校生を対象とした質問紙調査を行っている。子どもが父親を親族呼称（お父さん、親父、パパ等）で呼ぶ群は呼ばない群と比べて、愛着安定度が高く、愛着不安定度が低く、子どもが母親を親族呼称（お母さん、ママ等）で呼ぶかどうかは、子どもの愛着態度と有意な関連が示されないという結果が得られている。

木村（2015）⁷⁾は、大学生を対象とした質問紙から家族内呼称と家族機能及び家族満足度との関係を検討している。また、諸井・芳賀（2018）⁸⁾は女子大学生を対象とした小学生時代の回顧した質問紙調査から、親との接触経験と親子間呼称との関係を検討している。このように、家族内呼称と家族関係の研究が進められてきている。

本研究においては、多様な「家族」が存在している状況を踏まえ、「家族」について戸籍関係、血縁関係、同居の有無に関係なく、対象者が自分にとって近い「家族」関係であると主観的に認識している対象との間の呼称と、その家族内呼称の変化について調査することで、現代における家族内呼称の特徴を検討する。

目的

家族内呼称とその変化を検討することで、現代における家族内呼称の特徴を明らかにすることを本研究の目的とする。

方法

1. 調査対象者

首都圏に在住する53名に質問紙調査への協力を要請し、回答の得られた50名の回答内容について分析をおこなった。

性別については、男性、女性の2つの選択肢による回答を求めることが適切なものであるかについての疑問があり、また、調査協力者の生活史が質問紙回答に反映されると考えられ、少しでも個人を特定する可能性のある情報の提供を避けたい

とすることが考えられることから、「女性」、「男性」、「無回答希望」の3つの選択肢を設定した。

年齢は「10代」「20代」「30代」「40代」「50代」「60代以上」から選択を求めた。

<性別>

| | |
|-------|-----|
| 男性 | 1名 |
| 女性 | 45名 |
| 無回答希望 | 2名 |
| 未回答 | 2名 |

<年齢>

| | |
|-------|-----|
| 10代 | 13名 |
| 20代 | 30名 |
| 30代 | 2名 |
| 40代 | 4名 |
| 50代 | 1名 |
| 60代以上 | 0名 |

2. 質問紙の項目

質問紙は①プロフィール項目、②小さいときの家族内呼称、③成長による家族内呼称の変化、④新たに加わった家族メンバーによる家族内呼称の4つの領域から構成した。

①プロフィール項目

性別、年齢を質問した。

②小さいときの家族内呼称

多様な家族の形態や子育ての在り方の変化が生じているなかで、家族あるいは近い関係と感じている相手は、血縁関係や同居の有無によって決定されるものではないと考え、「あなたが小さい時、家族や親せきなどの人からどのように呼ばれていたかについて伺います」として、「父、母、兄、妹、祖父、祖母、いとこ、義父、義母、おじ、おば、父（または母）のパートナーなど、あなたにとって「家族」と感じていた（いる）人を□に入れてください」という形式で、まず「家族」メンバーについて回答を求めた。

次にその家族メンバーから、どのように呼ばれていたかについて、「次のなかから当てはまるものに○をつけてください」として、家族メンバーごとに対象者をどのように呼んでいたかの家族内

呼称を質問した。選択肢として、以下の9項目を設定した。

- (1) 下の名前
- (2) 下の名前+ちゃん
- (3) 下の名前+くん
- (4) 下の名前を略したニックネーム
- (5) ニックネーム
- (6) むすこ、おとうと、まご、三男など家族関係
- (7) そこ、ちょっとなど
- (8) おまえ
- (9) きみ

さらに、そのように呼ばれていた期間について質問した。

③成長による家族内呼称の変化

②の家族メンバーそれぞれからの家族内呼称の変化の有無及び、変化があった場合には、変化後の家族内呼称とそのように呼ばれていた期間について質問した。家族内呼称の選択肢の(6)についてのみ、弟妹の誕生による家族関係を示す呼称の変化が想定されることから、

- (6) おにいちゃん、おねえちゃん、にいに、ねえね、むすこ、おとうと、まご、三男など家族関係

とした。

④新たに加わった家族メンバーによる家族内呼称

新たに加わった家族メンバーでは、②と同様の理由により、調査協力者自身に「家族」と感じている②から新たに加わった家族メンバーの記載をまず求めた。次にそのメンバーからの対象者をどのように呼んでいた(る)かについて、家族内呼称を選択肢から選んでもらった。この際、結婚や出産等による新たなメンバーが想定されることから、家族関係の選択肢の(6)についてのみ、

- (6) むすこ、おとうと、まご、三男、おにいちゃん、おねえちゃん、パパ、ママなど家族関係

とした。

倫理的配慮

調査にあたっては、学校法人小池学園研究倫理規程に基づき、あらかじめ研究テーマ、研究調査の主旨、調査データの扱いや個人情報の保護に関して書面で説明し、同意の得られた場合に質問紙への回答をお願いした。調査内容については、個人情報を保護するとともに、情報漏洩の防止に十分配慮し、個人が特定されることのないように配慮した。

結果

1. 小さいときの家族内呼称

小さいときの家族としてあげている対象の人数は(弟妹など、後から加わって来る家族メンバーは別に尋ねているため含まれない)、2～7人であった。表1に家族人数ごとの回答者数を示す。

表1 小さいときの家族人数

| 家族人数 | 回答者数 |
|------|------|
| 2人 | 3人 |
| 3人 | 10人 |
| 4人 | 17人 |
| 5人 | 9人 |
| 6人 | 10人 |
| 7人 | 1人 |

小さいときの家族としてあげている対象では、50人中49人が母親を回答した。また、そのうちの1名は母親を2人回答していた。母親からの呼称と、そのように呼ばれていた期間は次のとおりである。

表2 母親からの呼称とその期間

*呼称は複数回答あり

| 呼称の種類 | 人数 | 期間 | 人数 |
|-------|-----|-------|-----|
| 下の名前 | 29人 | 0歳～現在 | 26人 |
| | | 0～18歳 | 1人 |
| | | 1歳～現在 | 1人 |
| | | 4歳～現在 | 1人 |

| 呼称の種類 | 人数 | 期間 | 人数 |
|----------------|-----|--------|-----|
| 下の名前を略したニックネーム | 15人 | 0歳～現在 | 11人 |
| | | 0～11歳 | 1人 |
| | | 0～15歳 | 1人 |
| | | 3歳～現在 | 1人 |
| | | 18歳～現在 | 1人 |
| 下の名前+ちゃん | 9人 | 0歳～現在 | 5人 |
| | | 0～2歳 | 1人 |
| | | 0～5歳 | 1人 |
| | | 0～6歳 | 1人 |
| | | 0～12歳 | 1人 |
| ニックネーム | 5人 | 0歳～現在 | 5人 |
| 家族関係 | 3人 | 0歳～現在 | 2人 |
| | | 6歳～現在 | 1人 |
| おまえ | 2人 | 0歳～現在 | 1人 |
| | | 0～18歳 | 1人 |

また、50人中45人が家族として父親を挙げている。父親からの呼称と、そのように呼ばれていた期間は次のとおりである。

表3 父親からの呼称とその期間

*呼称は複数回答あり

| 呼称の種類 | 人数 | 期間 | 人数 |
|----------------|-----|--------|-----|
| 下の名前 | 29人 | 0歳～現在 | 23人 |
| | | 0～9歳 | 1人 |
| | | 0～11歳 | 1人 |
| | | 0～18歳 | 1人 |
| | | 1歳～現在 | 1人 |
| | | 3歳～現在 | 1人 |
| | | 10歳～現在 | 1人 |
| | | 10歳～現在 | 1人 |
| 下の名前を略したニックネーム | 12人 | 0歳～現在 | 10人 |
| | | 0～11歳 | 1人 |
| | | 5歳～現在 | 1人 |
| 下の名前+ちゃん | 5人 | 0歳～現在 | 3人 |
| | | 0～2歳 | 1人 |
| | | 0～6歳 | 1人 |
| ニックネーム | 3人 | 0歳～現在 | 3人 |
| 家族関係 | 2人 | 0歳～現在 | 2人 |
| おまえ | 1人 | 0～18歳 | 1人 |

さらに、50人中37人が祖母を家族としてあげている。祖母からの呼称とその呼ばれていた期間は次のとおりである。

表4 祖母からの呼称とその期間

*呼称は複数回答あり

| 呼称の種類 | 人数 | 期間 | 人数 |
|----------------|-----|-------|-----|
| 下の名前 | 13人 | 0歳～現在 | 11人 |
| | | 0～17歳 | 1人 |
| | | 未記入 | 1人 |
| 下の名前を略したニックネーム | 10人 | 0歳～現在 | 7人 |
| | | 0～14歳 | 1人 |
| | | 未記入 | 2人 |
| 下の名前+ちゃん | 9人 | 0歳～現在 | 8人 |
| | | 0～17歳 | 1人 |
| | | 1～現在 | 1人 |
| | | 未回答 | 3人 |
| 下の名前+さん | 1人 | 0歳～現在 | 1人 |
| 下の名前+くん | 1人 | 0歳～現在 | 1人 |

50人中34人が祖父を家族としてあげている。祖父からの呼称とその呼ばれていた期間は次のとおりである。

表5 祖父からの呼称とその期間

*呼称は複数回答あり

| 呼称の種類 | 人数 | 期間 | 人数 |
|----------------|-----|-------|-----|
| 下の名前 | 17人 | 0歳～現在 | 12人 |
| | | 0～20歳 | 1人 |
| | | 0～27歳 | 1人 |
| | | 未回答 | 2人 |
| 下の名前を略したニックネーム | 10人 | 0歳～現在 | 7人 |
| | | 0～3歳 | 1人 |
| | | 0～14歳 | 1人 |
| | | 未記入 | 2人 |
| 下の名前+ちゃん | 6人 | 0歳～現在 | 5人 |
| | | 未回答 | 1人 |
| 下の名前+さん | 1人 | 0歳～現在 | 1人 |
| 下の名前+くん | 1人 | 0歳～現在 | 1人 |
| ニックネーム | 2人 | 0歳～現在 | 2人 |
| そこ、ちょっと等 | 1人 | 0歳～現在 | 1人 |

50人中14人が兄を、11名が姉を家族としてあげている。兄及び姉からの呼称とその呼ばれていた期間は次のとおりである。

表6 兄及び姉からの呼称とその期間

*呼称は複数回答あり

| 呼称の種類 | 人数 | | 期間と人数 | | | |
|----------------|----|---|-------|----|---|--|
| | 兄 | 姉 | 期間 | 人数 | | |
| | | | | 兄 | 姉 | |
| 下の名前 | 11 | 6 | 0歳～現在 | 9 | 6 | |
| | | | 3歳～現在 | 1 | 0 | |
| | | | 未回答 | 1 | 0 | |
| 下の名前を略したニックネーム | 1 | 4 | 0歳～現在 | 1 | 3 | |
| | | | 0～15歳 | 0 | 1 | |
| 下の名前+ちゃん | 3 | 1 | 0歳～現在 | 2 | 0 | |
| | | | 0～2歳 | 1 | 1 | |
| ニックネーム | 0 | 2 | 0～現在 | 0 | 2 | |
| おまえ | 1 | 0 | 0歳～現在 | 1 | 0 | |

50人中9人がおばを、8名がおじを家族としてあげている。おば及びおじからの呼称とその呼ばれていた期間は次のとおりである。

表7 おじ及びおばからの呼称とその期間

*呼称は複数回答あり

| 呼称の種類 | 人数 | | 期間と人数 | | | |
|----------------|----|----|-------|----|----|--|
| | おば | おじ | 期間 | 人数 | | |
| | | | | おば | おじ | |
| 下の名前 | 4 | 6 | 0歳～現在 | 4 | 6 | |
| 下の名前を略したニックネーム | 1 | 4 | 0歳～現在 | 1 | 0 | |
| 下の名前+ちゃん | 4 | 1 | 0歳～現在 | 4 | 1 | |
| ニックネーム | 0 | 1 | 0～現在 | 0 | 1 | |

その他の回答として、1名が曾祖父、曾祖母を挙げていて、いずれも下の名前を略したニックネームで、曾祖父は0～8歳、曾祖母は0～16歳を呼ばれていた期間としている。4名はいとこを挙げていて、下の名前、下の名前を略したニックネーム、ニックネーム、下の名前+くとそれぞれ呼ばれていた。呼ばれていた期間は1名が0～18歳であり、他の3名は0歳～現在と回答した。1名はともだちと回答し、ニックネームで呼ばれ、現在までとしている。

2. 成長に伴う家族内呼称の変化

家族メンバーそれぞれからの家族内呼称の変化の有無及び、変化があった場合には、変化後の家族内呼称とどのように呼ばれていた期間についての質問では、50名中40名が家族内呼称の変化を体験していなかった。

誰からの呼称が変化したかを見ると、父・母からが3名、母からのみが3名、父からのみが1名、父・母・祖父・祖母からが1名、父・母・兄・姉からが1名、姉からのみが1名であった。

家族からの呼称に変化があった調査対象者の変化の状況を、表8にまとめた。

表8 家族内呼称の変化

| | 誰から | 呼称 (変化前) | 呼称 (変化後) | 変化時期 |
|-----|-----|----------------|------------------|------|
| Aさん | 父 | 下の名前+ちゃん | 下の名前 | 2歳 |
| | 母 | 下の名前+ちゃん | 下の名前 | 2歳 |
| | 兄 | 下の名前+ちゃん | 下の名前 | 2歳 |
| | 姉 | 下の名前+ちゃん | 下の名前 | 2歳 |
| Bさん | 母 | 下の名前+ちゃん | 下の名前 | 7歳 |
| Cさん | 母 | ニックネーム | 下の名前 | 6歳 |
| Dさん | 父 | 下の名前+ちゃん | 下の名前 | 12歳 |
| | 母 | 下の名前を略したニックネーム | 下の名前 | 12歳 |
| Eさん | 父 | 下の名前を略したニックネーム | 下の名前 | 12歳 |
| | 母 | 下の名前を略したニックネーム | 下の名前 | 12歳 |
| | 祖父 | 下の名前を略したニックネーム | 下の名前 | 14歳 |
| Fさん | 祖母 | 下の名前を略したニックネーム | 下の名前 | 14歳 |
| | 母 | 下の名前を略したニックネーム | 下の名前 | 15歳 |
| Gさん | 母 | 下の名前、家族関係 | 下の名前、ニックネーム、家族関係 | 13歳 |

| | 誰から | 呼称 (変化前) | 呼称 (変化後) | 変化時期 |
|-----|-----|----------------|----------|----------|
| Hさん | 父 | 下の名前+ちゃん | 下の名前 | 6歳 |
| | 母 | 下の名前+ちゃん | 家族関係 | 5歳(弟の誕生) |
| Iさん | 姉 | 下の名前を略したニックネーム | そこ、ちょっと | 16歳 |
| Jさん | 父 | 下の名前、おまえ | おまえ | 18歳 |
| | 母 | 下の名前、おまえ | おまえ | 18歳 |

3. 新たな家族メンバーからの家族内呼称

50人中13人は、新たに加わった家族メンバーに記載がなく、新たなメンバーはいない。

37人は新たに加わった家族メンバーがおり、弟が23人、妹が15人、子どもが10人、夫が5人、妻が1人、パートナーが3人、おじが2人であり、その他11人がそれぞれの家族メンバーを回答していた(1人ずつであるので、呼称と併せて後述する)。

弟からの呼称は、下の名前が11人、家族関係が7人、下の名前を略したニックネームが4人、ニックネームが3人、下の名前+ちゃんが1人であった。

妹からの呼称は、家族関係が6人、下の名前を略したニックネームが5人、下の名前が3人、ニックネーム、下の名前+ちゃん、おまえが1人ずつであった。

子どもからの呼称は、10人全員が家族関係であった。また、その中の1人は子どもの年齢が15歳頃からそこ、ちょっと等に変化したと回答した。

夫からの呼称は、下の名前が4人、家族関係が2人、下の名前+ちゃんが1人、妻からの呼称はニックネーム1人、パートナーからの呼称は、ニックネームが2人、下の名前が1人であった。

おじからの呼称は、下の名前+ちゃんが1人、下の名前1人であった。

調査対象者から、1人ずつ次の家族メンバーが挙げられた。()内に呼称を併せて記載する。挙げられた家族メンバーは、父(下の名前)、いところ(下の名前)、姪(下の名前を略したニックネーム)、母のパートナー(下の名前+ちゃん)、親友(下の名前)、祖母(下の名前)、祖父(下の名前)、義父(ニックネーム)、義母(ニックネー

ム)、義姉(ニックネーム)、義妹(ニックネーム)であった。

考察

1. 小さいときの家族内呼称

小さいときの家族からの呼ばれ方では、父母では下の名前が非常に多かった。次に、下の名前を略したニックネームが多く見られた。子どもにつけられた名前自体が呼称として使われている。

祖父母からの呼ばれ方では、下の名前が最も多いものの、下の名前を略したニックネームや、下の名前にちゃんを付けた呼称を用いる割合が高くなっている。これは、祖父母にとって小さい子どもは、可愛い存在であることが多く、それが呼称に現れていると考えられる。

兄姉からの呼称では、兄と姉の場合に呼称の違いが見られる。兄は下の名前と呼ぶ割合が高いのに対し、姉では下の名前が一番多いものの、下の名前を略したニックネームの割合も高くなっている。

おじやおば、曾祖父母、いところを家族メンバーと挙げている調査対象者もみられ、祖父母も含めて同居の有無にかかわらず、血縁関係のある者を、主観的に家族として感じていると言える。

2. 成長に伴う家族内呼称の変化

家族内呼称は、80%の調査対象者では変化が見られなかった。家族内呼称は非常にプライベートな日常生活における呼称であることから、変化がない傾向があることが考えられる。この点については、家族について家族外の人に話すときの呼称の使い方と比較して検討する必要がある。

また、変化が見られた調査対象者の変化の状況

をみると、小学校入学の時期や思春期を迎える時期に、それまでの下の名前を略したニックネームや、下の名前にちゃんを付した呼称、ニックネームから、下の名前に変更している傾向が見られる。弟の誕生がきっかけとなった調査対象者も見られた。子どもの生活の変化や家族外の人との関係の広がりを迎えたり、思春期となり大人になっていくことを意識する時期に変化が生まれていると考えられる。子ども自身の呼称を変えたい気持ちと共に、父母、祖父母、兄姉側の子どもの成長への意識や子どもの周囲への配慮も働いていると考えられる。

3. 新たな家族メンバーからの家族内呼称

新たな家族メンバーからの呼ばれ方では、新たな家族メンバーとして弟妹を回答している人が多かった。弟からの呼称では、下の名前が最も多く、次におにいちゃん、おねえちゃんなどの家族関係による呼称であるのに対し、妹では家族関係の呼称が最も多く、次に下の名前を略したニックネームであり、弟と妹の結果が異なっている。理由は不明であるが、より数を増やして調査してみる必要がある。

自らの子どもからの呼称は、10人全員がおとうさん、おかあさん、パパ、ママ、とうちゃん、かあちゃん等の家族関係であった。子どもが初めて話す言葉が、ママ、パパなど親を示す言葉である場合も多くあり、親子関係がそのまま呼称として定着すると考えられる。また、家族関係をあらわす呼称のなかでも、親をどのように呼ぶかという具体的な呼称は、年齢や親との関係性によって変化する可能性がある。1名ではあるが、子どもの年齢が15歳頃から呼び方が変わったと述べていた。また、調査対象者がその親を何と呼んでいたかと、子どもからどのように呼ばれているかの関係を調べてみることは興味深い。

また、主観的に家族メンバーとして加わったと認識されている者として、夫や妻、自分自身のパートナー、父、母のパートナー、親友、新しい父の両親である祖父母、結婚相手の家族である義父、

義母、義姉、義妹も挙げられていた。このように、人が経験する家族は流動的な要素があることについて、家族関係の研究を行う際には留意する必要がある。

4. 今後の課題

本研究により、家族からどのように呼ばれるかという家族内呼称について、その変化も含めて検討を行った。家族内呼称については、家族のことを自分はどのように呼ぶか、家族メンバーが他の家族メンバーをどのように呼ぶか、それは成長によってどのように変化するか。また、家族外の人に家族のことをどのような呼称で呼ぶか、それは成長と共に変化するかなど、多様なテーマが存在する。

現代の家族の様相と家族内呼称とは密接な関係があると考えられ、さらに検討を進めていきたい。

また、今回は質問紙調査を実施した。現代の家族関係について詳細な検討を行っていくためには、面接法を用いた細かいニュアンスの検討が必要になる。家族の研究は非常にデリケートな領域を含むことから、今後研究方法についても検討を重ねていきたい。

付記

本研究の調査にご協力いただいた皆さまに深く感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 横谷謙次 (2014) 家族内呼称の心理学 集団の構造と機能への呼称の関与, ナカニシヤ出版.
- 2) 総務省統計局 (2021) 令和2年度国勢調査調査の結果 <https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html> (2021.12.22 閲覧)
- 3) 厚生労働省 (2021) 令和2 (2020) 人口動態調査 https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei20/dl/03_h1.pdf (2021.12.21 閲覧)
- 4) 横谷謙次・長谷川啓三 (2010a) 呼称が示す

談話モダリティ：無規定な呼称とそれ以外の呼称との比較，東北大学大学院教育学研究科研究年報，59(1)，pp 275-292.

- 5) 横谷謙次・長谷川啓三 (2010b) 侮蔑した呼称は配偶者暴力を示す，東北大学大学院教育学研究年報，58(2)，pp 229-238.
- 6) 横谷謙次・長谷川啓三 (2011) 子どもから親への呼称と子どもの愛着態度，家族心理学研究，25(1)，pp 45-55.
- 7) 木村博旨 (2015) 大学生における家族内呼称の心理的同一化傾向と家族機能及び家族満足度との関連，龍谷大学大学院文学研究科紀要，37，pp 118-139.
- 8) 諸井克英・芳賀美乃里 (2018) 女子大学生における親との接触経験と親子間呼称との関係－小学校時代の回顧－，同志社女子大学学術研究年報，69，pp 97-105.

高橋美枝 (埼玉東萌短期大学教授)